

インターンシップ体験記 (海外インターンシップの場合は英語で記入)

## NIFRELで「感性にふれる」伝え方を学ぶ



今回は、株式会社 海遊館の運営する NIFREL にてインターンシップを行った。NIFREL は、万博跡地にある EXPO CITY に併設するミュージアムである。「感性にふれる」というコンセプトを持つ施設にて、私は自身の研究分野である“魚の模様ができる仕組み”についてのアウトリーチを行い、科学の内容を広く伝える方法について学んだ。

## ◆ 生体展示施設におけるサイエンスコミュニケーションを学ぶ [目的]

私は、大学の研究内容等を広く一般の人に伝えていく活動に興味がある。そのためには、実際に一般の人に対してアウトリーチを行う場が必要だ。今回のインターンシップでは、NIFREL の中で行われるコミュニケーションの方法を学び、自身のアウトリーチの力を磨くことを目的とした。

## ◆ “色と模様”の専門家として働く [自身の位置づけ]

今回のインターンシップでは、NIFREL の飼育員として勤務するのではなく、生きものの展示や企画内容を考えたり、職員に対して専門的な知識を提供したりする、アドバイザーのような立ち位置で勤務を行った。

## ◆ 研究と並行して行うインターンシップの生活 [インターン中の生活]

インターンシップの様式としては、先方から課題が与えられ、その課題に対する計画や製作を自宅もしくは研究室で行い、二週間に一度ほど、課題の進捗報告や打ち合わせのために出勤する、という形であった。NIFREL は大阪大学の近場にあるため、勤務地まで自宅から通った。このため、日々の研究と両立することが可能であったが、それと同時に、自分の適切な時間管理が問われる様式であった。どちらにどれだけ時間を割くかなどといった、計画的に2つ以上のプロジェクトを進めていくための技量を訓練することができた。

## ◆ 実際の活動 [やったこと]

本インターンシップ中では、主に6つの活動を行った。

## (1) 展示の企画ミーティングに参加

NIFREL 内で行われた“色と模様”に関する展示企画ミーティングに参加し、模様の研究者としての視点からアイデアを提案した。

## (2) 館内リーフレットのコラム執筆

春夏秋冬に合わせて期間限定で配布される NIFREL 館内リーフレットの「冬にふれる“生きものもよう”」において、魚の色や模様ができるメカニズムの紹介コラムを執筆した(右図)。このコラムは、NIFREL 広報担当の方と内容に関する打ち合わせを行い、複数回の推敲のもと作成された。



インターンシップ体験記 (続き)

## (3) NIFREL キュレーター体験

NIFREL にいる生きものの飼育や展示、研究を担うキュレーターの業務を体験した。朝は水槽掃除から始まり、生きものの状態観察やスケジュールのチェック。昼からは、給餌や水槽拭きをしながら、お客様とのコミュニケーション。夕方以降は、新しく展示される予定の生きものの展示条件の検討や生体観察など。表では、生きもののスペシャリストとして生体を紹介することで、生きものとお客をつなぎ、裏では、スペシャリストであり続けるために、生きものを育て、観察し、生きものと自分をつなぐ、という印象深い体験ができた。

## (4) 社内向けの「色と模様」に関するレクチャー

NIFREL の職員向けに“色と模様”に関する一時間ほどのレクチャーを行った。その事前準備として、『色と模様に関して、お客様からよく聞かれる質問などはあるか?どのようなことに疑問をもつか?』といったアンケートを行い、そこで得られた意見を参考にして発表内容を作成した。

## (5) Web コンテンツの作製

“色と模様”に関する少し詳しいな紹介を NIFREL の公式 HP に載せるために、その内容について作製した。コンテンツは、一般の人に広く公開されるため、専門的な内容をできるだけ噛み砕いた表現で執筆した。また、難しい内容にならないように、自身で全てのイラストを描き、興味をもってもらえるような工夫を行った(右図)。

## (6) サイエンスカフェの企画と実施

「模様のできる仕組み」について、近藤滋教授と共に一般向けのサイエンスカフェを実施した。サイエンスカフェは、NIFREL 内で初めての取り組みであり、私は自ら進んで企画をしたいと提案し、実施させて頂いた。当日は、生きものや顕微鏡を用いたワークを行い、直感的に模様ができる仕組みを理解してもらえるように工夫をした。参加者のアンケートは好評であり、今後もこのような取り組みを続けてほしいなどといった声がみられた。

## ◆ 実践を通すことでしか学べない多くのこと [学んだこと]

企画会議に参加することで、生きものの魅力を伝えるために工夫された展示が生みだされる過程を知ることができた。キュレーター体験やレクチャー、サイエンスカフェの実践を通して、一般の人がどのような視点で科学に興味をもつのか、また、どのような会話を行えば、その人の興味や好奇心を引き出すことができるのかということも学んだ。Web コンテンツ作製では、イラストを用いて研究内容を説明するという、自分自身の武器に気付くことができた。本インターンシップを通して、NIFREL が行うサイエンスコミュニケーションの方法を知れたこと、自分のアウトリーチの力を訓練できたことの二つの成果が得られ、学ぶことが多かった。

